

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	倫理
科目基礎情報						
科目番号	0055		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	知能機械工学科		対象学年	3		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント					
担当教員	中山 良子					
到達目標						
1. 西洋思想・東洋思想の基礎を理解する。 2. 各思想から自分自身の人生観・世界観を広げること为目标とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	思想の基礎を理解できる		思想の基礎を基本的に理解できる		思想の基礎を理解できない	
学科の到達目標項目との関係						
A JABEE A						
教育方法等						
概要	各哲学者を紹介し、さまざまな考えに触れることによって、自分自身や社会について考える。					
授業の進め方・方法	プリント、視聴覚教材を用いた授業を行う。 情報収集→調べる→まとめる→発表する能力を身に付ける。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	倫理を学ぶとは	授業内容を理解できる。		
		2週	防災と倫理	授業内容を理解できる。		
		3週	人間関係の倫理 セクシュアリティと人 身体・生殖を考える	授業内容を理解できる。		
		4週	人間関係の倫理 ジェンダーを捉える	授業内容を理解できる。		
		5週	技術と社会 技術を運用するのは人である	授業内容を理解できる。		
		6週	技術と社会 内部告発を考える	授業内容を理解できる。		
		7週	公害と倫理① 水俣病を今考える	授業内容を理解できる。		
		8週	公害と倫理② カネミ油症	授業内容を理解できる。		
	4thQ	9週	メディアと差別の構造① メディアリテラシ	授業内容を理解できる。		
		10週	メディアと差別の構造② 歴史にのこる差別	授業内容を理解できる。		
		11週	メディアと差別の構造③ 歴史にのこる差別、その克服にむけて	授業内容を理解できる。		
		12週	戦争から考える倫理① アウシュビッツから考える	授業内容を理解できる。		
		13週	戦争から考える倫理② ベトナム戦争・イラク戦争とPTSD	授業内容を理解できる。		
		14週	戦争から考える倫理③ イラク戦争とモラルコラプション	授業内容を理解できる。		
		15週	倫理を考える テスト返却と解説	授業内容を理解できる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前3,前9,前12
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14

				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	前10,前11,前12
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前8,前10,前11,前12
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	前1,前2
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	前1,前2
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	前1,前2,前3
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	前5,前10,前11
評価割合						
				定期試験	授業での提出課題	合計
総合評価割合				70	30	100
配点				70	30	100